

泌尿紀要  
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 34, No. 5 May 1988

# 泌尿器科紀要

第34巻 第5号 1988年5月

**【原 著】**

尿路結石症に対する ESWL (Extracorporeal shock wave lithotripsy) の治療経験.....大西 規夫・ほか... 765

体外衝撃波 (ESWL) による腎・尿管結石破碎術の臨床経験 (第 IV 報):  
治療開始より3年間の治療経験.....丹田 均・ほか... 770

電気水圧衝撃波による上部尿路結石破碎手術の経験.....絹川 常郎・ほか... 777

CDDP 腎毒性に対する FOM の軽減効果に関する臨床的検討.....斎藤 雅昭・ほか... 782

腎機能評価における  $\alpha_1$ -microglobulin の意義—CDDP 使用例の検討—氏家 徹・ほか... 790

膀胱尿管新吻合術に関する臨床的検討  
第1報: primary VUR 65例 (100尿管) の手術成績.....斎藤 誠一・ほか... 797

膀胱尿管新吻合術に関する臨床的検討  
第2報: Boari 法8例, Psoas-Hitch 法8例の手術成績.....斎藤 誠一・ほか... 805

急性膀胱炎に対する Single Day Treatment の検討.....山口 一洋・川口 光平... 811

前立腺癌の臨床的検討—中国白求恩医科大学第三臨床学院における経験—肖 連陞・ほか... 814

尿道下裂の手術的治療について.....高橋 剛... 819

インポテンス患者における夜間睡眠時勃起現象 (NPT) と Artificial Full Erection の比較検討.....青木 正治・ほか... 825

睪丸腫瘍の患者対照研究.....森 満・ほか... 832

市立貝塚病院における男性不妊症の治療.....永井 信夫・ほか... 839

特発性男子不妊症に対するクエン酸クロミフェン投与の治療成績.....林 宣男・ほか... 847

精索静脈瘤高位結紮術後の合併症: 特に術後陰囊水腫3例の検討.....影山 幸雄・ほか... 851

**【症 例】**

副腎骨髄脂肪腫の2例.....壽美 周平・ほか... 855

両側腎摘除術を行った囊胞腎の1例.....飯田 宜志・ほか... 862

右肺扁平上皮癌と左腎盂移行上皮癌の重複癌の1例.....窪田 理裕・ほか... 866

囊胞性尿管炎の1例.....仲谷 達也・ほか... 870

Tranilast が原因と考えられる薬剤性膀胱炎の8例.....桑原 孝・ほか... 874

転移性膀胱悪性リンパ腫の1例.....三宅 修・ほか... 879

VAB-6 療法が著効を呈した extragonadal germ cell tumor の1例.....岩崎 雅志・ほか... 883

精管精管吻合術と副睪丸精管吻合術により精液の正常化をみた  
閉塞性無精子症の1例.....松田 公志・ほか... 889

胃癌の精索転移.....香川 征・ほか... 892

陰囊類表皮囊胞の1例.....日原 徹・ほか... 895

**【統 計】**

大阪大学泌尿器科学教室における最近5年間 (1982年1月~1986年12月) の手術統計.....多田 安温・ほか... 898

**【治 験】**

尿路結石症に対するクエン酸製剤 (CG-120) 療法の多施設共同臨床試験:  
1. 臨床成績.....大川 順正・ほか... 905

尿路結石症に対するクエン酸製剤 (CG-120) 療法の多施設共同臨床試験:  
2. 尿および血液化学検査成績.....大川 順正・ほか... 918

Cefbuperazone (CBPZ) の前立腺組織内移行に関する検討.....藤井 敬三・ほか... 932

複雑性尿路感染症に対する Ceftriaxone の臨床的・基礎的検討.....西尾 正一・吉原 秀高... 937

## 購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

## 投稿規定 (1988年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨床統計、そのほかで和文または英文とする。
  - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
  - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)、図(Fig.)5枚、表(Table)3枚までとする。
  - (3) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなし、清書する。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。  
ワープロを使用する場合もB5版原稿用紙に1枚20×20字とする。
  - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。下段に筆頭者名と、2語からなる running title を付記する。  
例；山田・ほか：前立腺癌・PSAP
  - (5) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
  - (6) 英文原稿はA4版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
  - (7) 数字はすべて算用数字を使用し、単位は m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg,  $\mu$ g, %, °C などとする。
  - (8) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1. ..., Fig. 2. ..., Table 1. ..., Table 2. ... などと一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
  - (9) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる(アルファベット順不可)。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文(ワープロ可)はダブルスペースでタイプする。  
例：山田<sup>1,3,7)</sup>、田中ら<sup>8,11-13)</sup>によると...

雑誌の場合—著者名(全員)：標題。雑誌名 巻：最初頁—最終頁、発行年

例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. *J Urol* 124: 205-207, 1980

例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田修: 経皮的腎砕石術(PNL)および経尿道的尿管砕石術(TUL)にみられる発熱について。泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987

単行本の場合—著者名(全員)：標題。書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: *Urolithiasis Research*. Edited by Fleisch H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp 331-334, Plenum Press, London, 1976

例 4) 辻 一郎, 小柳知彦: 小児泌尿器科疾患, 市川篤二, 落合京一郎, 高安久雄編, 第 1 版, 9B・pp 48-71, 金原出版, 東京, 1983

- (8) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残し, オリジナルを書留で送付する.

(原稿送付先)

〒606 京都市左京区聖護院山王町18

メタボ岡崎 301 号

泌尿器科紀要刊行会宛

- (9) 論文の採否: 論文の採否は編集委員で決定し, 連絡する.  
 (10) 論文の加筆訂正: 審査の結果, 編集方針にしたがって原稿の加筆, 削除, および一部分の書き直しをお願いすることがある. また, 編集委員の責任において多少字句の訂正をすることがある.  
 (11) 校正は初校を著者による責任校正とし, 再校以降は編集部が行う. 著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する.  
 (12) 投稿にあたっては, 本誌を十分参考にして体裁を守ること.

### 3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする.  
 迅速掲載には迅速掲載料を要する. 5 頁以内は 30,000 円, 6 頁以上は 1 頁毎に 10,000 円を加算したものを申し受ける.  
 (2) 掲載料は 1 頁につき和文は 5,500 円, 英文は 6,500 円, 超過頁は 1 頁につき 7,000 円, 写真代, 凸版, トレース代, 別冊, 送料などは別に実費を申し受ける.  
 (3) 薬剤の効果, 測定試薬の成績, 治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については, 掲載料を別途に申し受ける.  
 4. 別冊: 実費負担とし, 著者校正時に部数を指定する.

### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
 e.g.: Yamada, et al: Prostatic cancer, PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.

編集委員: 吉田 修(委員長) 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重  
 新谷 浩 園田 孝夫 友吉 唯夫

---

泌尿器科紀要 第34巻 第5号 1988年5月25日 印刷 1988年5月31日 発行

発行所 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会

〒606 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎 301 号 電話 (075) 752-0100

F A X (075) 752-0190

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入

---